

## 令和4年度 障害児・者のスポーツライフに関する調査研究

### <目的>

スポーツを通じた共生社会の実現に向けて、障害の有無にかかわらずスポーツに親しめるようにするためには、スポーツの実施に係る障害者特有の障壁の解消と、スポーツ施策の実施体制上の課題の解消を図ることが不可欠である。また、スポーツ基本法第9条に定められている「スポーツ基本計画」の第3期計画においても、新たな視点として、性別、年齢、障害の有無、経済的実情、地域実情にかかわらず、全ての人がスポーツにアクセスできるような社会の実現・機運の醸成を目指すことが掲げられている。

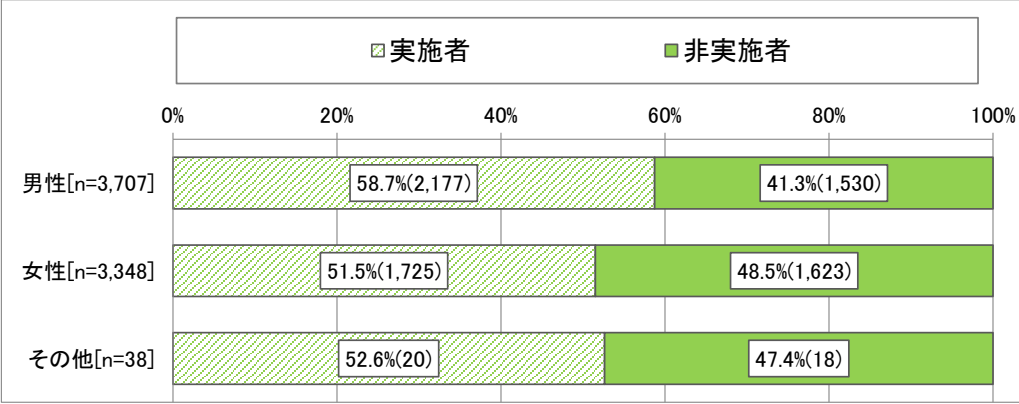
これらのことから、本事業は、障害者が生涯にわたってスポーツに親しみ、スポーツに取り組むことができる基盤を整備するために、障害者のスポーツの実施状況及び課題を把握し、今後の環境整備や、障害者スポーツの理解啓発の施策に反映するための根拠を明らかにすることを目的とする。

### <調査概要>

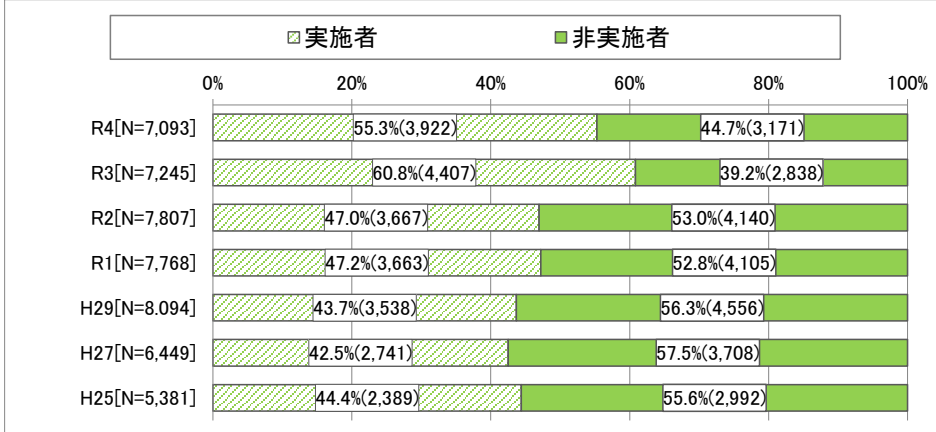
- 全国の障害者及び障害者を家族に持つ方々を対象として、障害に関する基本情報、運動・スポーツの実施状況（実施種目、頻度、目的等）、スポーツ実施における障壁、今後行いたいと思う運動・スポーツ、スポーツクラブや同好会・サークルへの加入状況、過去1年間のスポーツ観戦の実態、スポーツ観戦における障壁等を調査した。

## 2. 調査結果 ①運動・スポーツの実施率

- アンケートの結果、過去1年間に何らかの運動・スポーツを行った割合をみると、男性で58.7%、女性51.5%という結果となった。
- 令和3年度調査と比較すると、実施者の割合は60.8%から55.3%となった。前年度より減少したものの、令和2年度以前より高い割合を維持している。



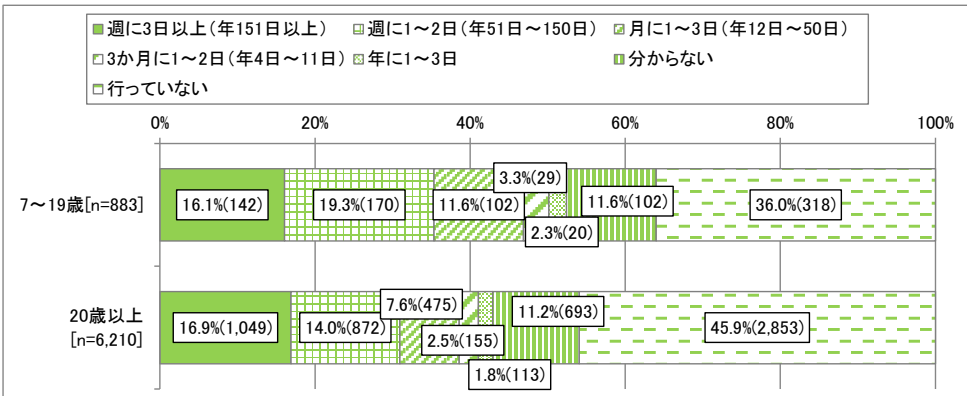
図表1 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無 (性別)



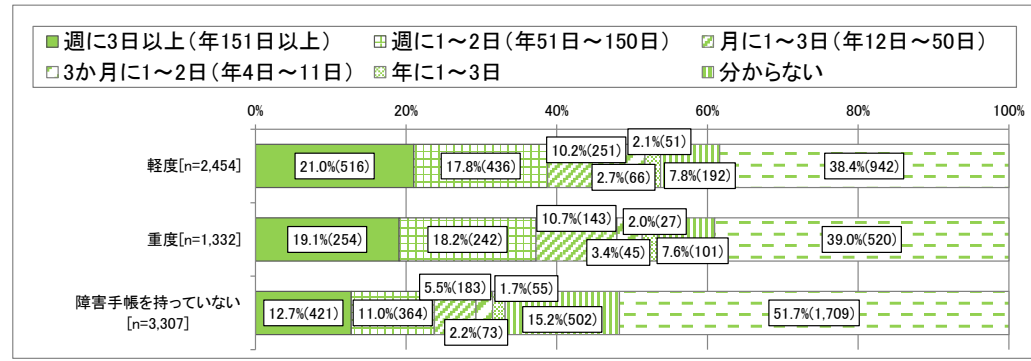
図表2 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無 (過去との比較)

## 2. 調査結果 ②運動・スポーツを行った日数

- 過去1年間に運動・スポーツを行った日数を7～19歳、20歳以上別にみると、7～19歳では週1日以上の実施率が35.3%であり、20歳以上の30.9%よりも高い。
- 障害の程度別では、「障害者手帳を持っていない」人の週1日以上の実施率は、「重度」「軽度」よりも低い。また、「障害者手帳を持っていない」人の運動・スポーツを「行っていない」割合が「重度」「軽度」よりも高くなっている。



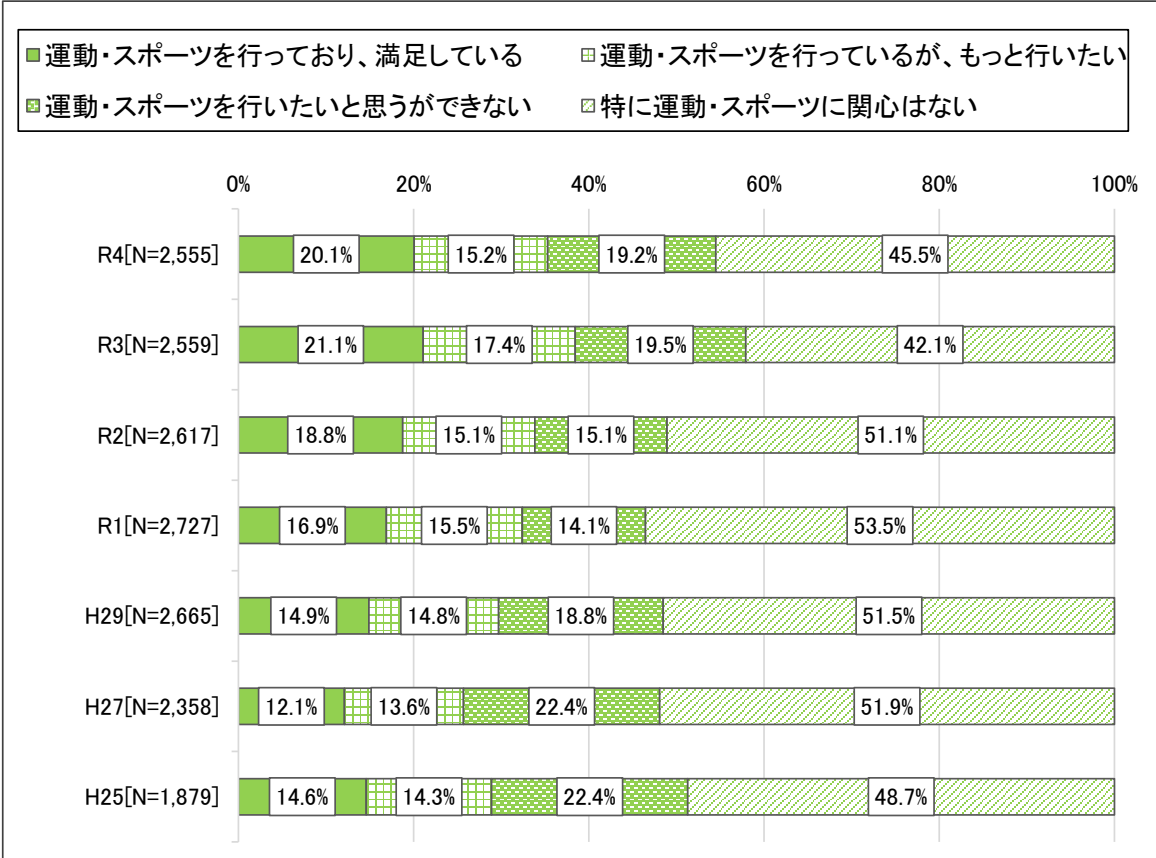
図表3 1年間に運動・スポーツを行った日数 (7～19歳／20歳以上別)



図表4 1年間に運動・スポーツを行った日数 (障害程度別)

## 2. 調査結果 ③現在の運動・スポーツへの取組について

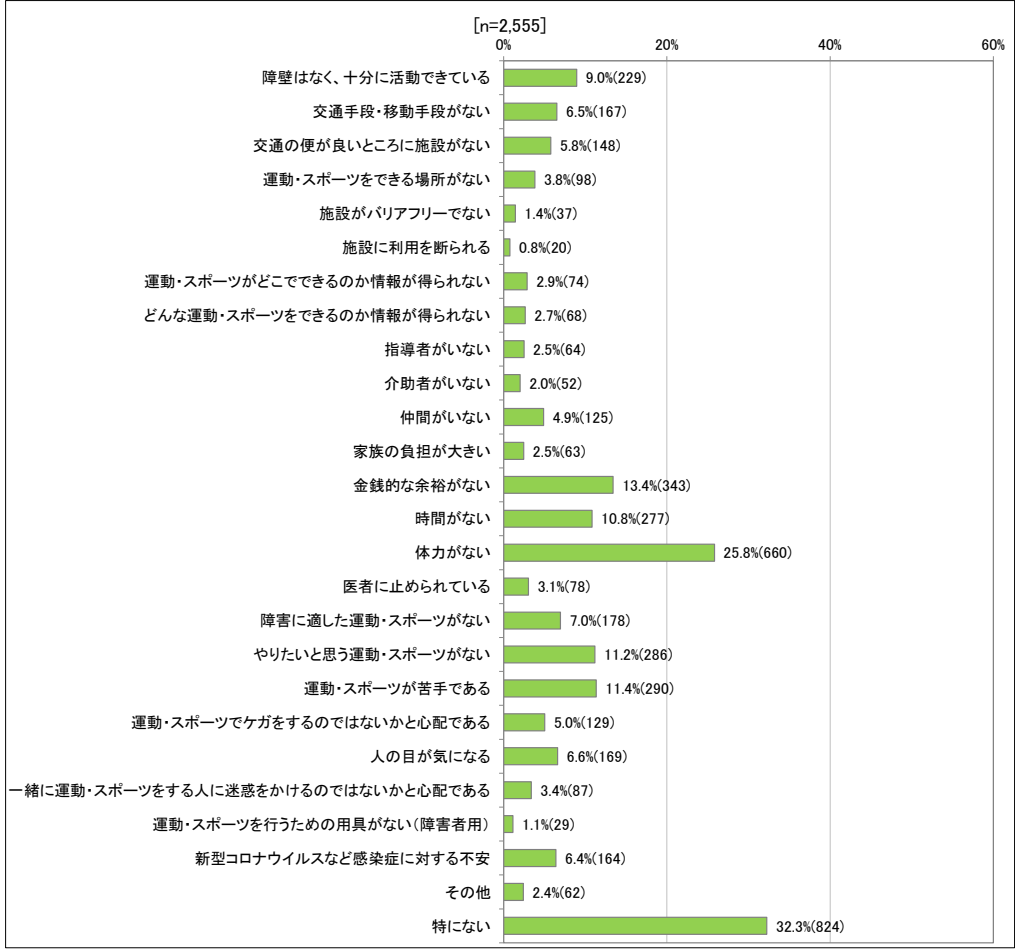
■現在の運動・スポーツへの取組については、過去調査と比較すると、令和4年度調査では「運動・スポーツを行っており、満足している」「運動・スポーツを行っているが、もっと行いたい」人の割合が35.3%であった。「運動・スポーツを行いたいと思うができない」を含めて、運動をしている、したいと回答した割合が、令和3年度以降半数を超えている。



図表5 現在の運動・スポーツへの取組について

## 2. 調査結果 ④運動・スポーツの実施の障壁

- 運動・スポーツの実施の障壁をみると、「特にない」が32.3%と高く、次いで「体力がない」(25.8%)、「金銭的な余裕がない」(13.4%)となっている。
- 「障壁はなく、十分に活動できている」割合は9.0%である。



図表6 運動・スポーツ実施の障壁

## 2. 調査結果 ⑤その他

### その他の主な調査結果

過去1年間に実施したスポーツ・レクリエーションの上位種目は、「ウォーキング」「散歩（ぶらぶら歩き）」

・過去1年間にスポーツ・レクリエーションを実施した人が行った種目は、「ウォーキング」「散歩（ぶらぶら歩き）」の割合が高い。

スポーツ・レクリエーションを始めたきっかけは「家族に奨められた」「医師に奨められた」

・スポーツ・レクリエーションを始めたきっかけは、「特に理由はない・なんとなく」が4割強で最も割合が高く、次いで「家族に奨められた」「医師に奨められた」の順に割合が高い。

スポーツ・レクリエーションを行う主な目的は、「健康の維持・増進のため」

・運動・スポーツを実施する主な目的については、「健康の維持・増進のため」が最も多く、次いで「気分転換・ストレス解消のため」の割合が高い。

運動・スポーツを実施しない理由

・運動・スポーツの非実施者のうち、障壁が「特になし」と回答した人に、スポーツを実施しない理由を聞くと、「特に理由はない」、「わからない」の順に高く、スポーツそのものに無関心であることがうかがえる。その他の理由としては、「運動・スポーツに興味がない」の割合が高い。